AAR 発第 09033 号
2009(平成 21)年 5 月 12 日

在ザンビア日本国大使館
特命全権大使　三田村 秀人　殿

代表者：東京都品川区上大崎 2-12-2　ﾐｽﾞﾎﾋﾞﾙ 5F
特定非営利活動法人　難民を助ける会
理事長　長（おさ）（志邨）有紀枝
（代）ザンビア事務所駐在代表　芦田　崇

日本ＮＧＯ連携無償資金協力
事業完了報告書

平成 20 年 2 月 19 日付日本ＮＧＯ連携無償資金協力贈与契約に基づく「ザンビア共和国ルサカ州チランガ周辺地域における HIV/エイズ対策プロジェクト(フェーズ 3)」が、平成 21 年 2 月 18 日をもって完了いたしましたので、関係書類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

１．事業の実施期間：　平成 20 年 2 月 19 日　～　平成 21 年 2 月 18 日

２．事業の実施成果（要約）：

（１）成果(詳細は添付資料②詳細報告 をご参照)

フェーズ 3 では、住民の立案による啓発・ケア活動の継続と強化、HIV/エイズに対する正しい知識の普及、HIV 抗体検査受検者の増加、HIV 陽性者に対する社会的・心理的な支援の拡充、住民による自立発展性のある HIV/エイズ対策活動の仕組みの構築、クリニックや行政機関との連携体制の緊密化、などの成果をあげた。

フェーズ 3 の最大の目標である、住民グループの活動の持続性確保のための体制作りについては、各グループがその重要性に対して明確な認識を持ち、必要な体制を整えながら、利用可能な物的・人的・資金的資源を模索し、特に資金面では小規模な貸付を受ける、などの試行錯誤を繰り返しつつ自主的な対策を実施している。

（２）自己評価

計画の妥当性：本事業では、地域の政府機関や住民グループとの会議のほか、戸別訪問による啓発活動を通じて得られた地域住民の意見を随時取り入れ対策を講じてお

り、地域社会および受益者のニーズとの整合性は高いと考える。例えば、ここ数年は抗レトロウィルス薬（ARV）の効果や副作用に関心を持つようになった住民が増えてきていることを踏まえ、ARV についての正しい知識を広めるよう尽力した結果、HIV 抗体検査受検者が国の平均値を大幅に超える形で増加するなどの前向きな成果が出ている。

効率性：住民グループ自身がそれぞれの活動の目標に沿って啓発やケア活動を実施しており、人件費等が発生せず、効率の良い事業である。かかる実施体制のもと、事業期間中にワークショップや啓発活動などが予定通り実施され、期待された効果を得たことから、効率性は高い。

有効性：各住民グループが自ら立案した活動計画に基づいて啓発やケアを実践し、各家庭において HIV/エイズに対する正しい理解が広まるとともに、より質の高い身体的・精神的なケアが受けられるようになるなど、事業目的の大部分につき当初計画した成果が現れている。

インパクト：フェーズ 3 では、新たに女性 HIV 陽性者グループや、家庭訪問看護ボランティアグループも取り込んで、活動を活性化した。フェーズ 3 期間中の戸別訪問・啓発セミナー活動の対象者数は約 9,000 人にのぼり、地域住民の HIV/エイズに対する理解が向上し、その取り組みに変化が見られるなど、インパクトを与えた。

自立発展性：フェーズ 3 の活動を通じて、各住民グループの活動実施能力は一段と向上した。この結果、啓発やケア活動の自主的な継続・自立発展が可能となっている。グループの維持管理体制構築にも一定の成果は見られているが、試行段階である活動資金調達と同資金の管理が課題として残っている。

フェーズ 3 の成果は以上のとおりである。その結果 3 年間の活動を通じて、体系だった啓発活動・ケア活動が実施しされていなかった当地において、ワークショップなどを通じて 15 の住民グループのメンバー約 2,000 名に知識や技術を提供した。そして、その住民グループが地域内延べ約 30,000 名（事業開始時点のチランガ地域の全住民 27,000 人）に対して啓発活動を、約 9,200 名に対して身体的・心理的なケアサポート活動を行うことができた。

これらの活動の結果、概ね計画当初の目標に近い成果が挙げられ、地域住民の HIV/エイズに対する考え方や、日々の生活の中での取り組みに変化が見られた。

また、住民グループが活動を持続することの重要性を理解し、自主的に対策を実施するようになっており、3 年計画の目的を達成することができたと考える。

（3）今後の方針

本プロジェクトは 3 年間でチランガ地域に根ざした住民活動を育て、住民自らエイズ対策を実施できるようにすることにより、地域における HIV/エイズの影響を軽減することを目的としてきた。住民や政府機関からのフィードバックや終了時評価の結果から見て、目標としてきた成果を達成し、地域の HIV/エイズ対策に一定のインパクトを与えたと考えられることから、当初予定通り計画を終了する。難民を助ける会としては今後、事業地を隣接するチパパ地域に変えて新たに 3 年間のプロジェクトを実

施する予定である（平成 21 年 4 月 2 日に申請書を提出済み）。その際には、本事業における教訓を活かし、より効果的な活動の実施を目指したい。

３．日本ＮＧＯ支援無償資金精算額：　　ＵＳ＄２０５，０８２．００
（契約額（供与限度額）と同額）

４．会計報告（事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し）：　別紙のとおり

５．外部監査報告書提出予定日：平成 21 年 5 月 18 日

【添付書類】

① 会計報告：事業資金収支表、資金使用明細書、支払証拠書写し綴り
② 事業の成果（詳細報告書）、②-2 個別訪問・アウトリーチによる啓発活動
③ 事業実施内容詳細（2008 年 11 月 1 日から 2009 年 2 月 18 日まで）
④ 事業内容説明写真
⑤ 業務日報：日本人統括責任者(芦田崇)、本部スタッフ(坪井ひとし)

添付②：事業の成果（詳細報告書）

1. 事業目的：

3 年間の事業で目指したのは、要約すると次の 2 点である：①ザンビア共和国ルサカ州チランガ周辺地域において、HIV /エイズ問題に対する包括的かつ地域に根ざした住民活動を育て、「啓発」「ケア」などの活動を住民が自ら実施できるようにする。②HIV/エイズに対する正しい知識が普及し予防を進めるとともに、HIV 陽性者、女性や子どもを含めた HIV 感染拡大の影響を受ける人々に対する支援のシステムを確立する。

最終年である「フェーズ 3 」(2008 年 2 月 19 日から 2009 年 2 月 18 日まで)の目的は、以下の 3 点である：①住民のグループがフェーズ 2 までに培ってきた能力を発揮して、啓発やケアサポート活動を広く立案して実施することで、コミュニティに HIV/エイズに対する正しい知識が普及し、社会的・心理的ケアのシステムが確立される。②HIV 陽性者に対する差別・偏見が軽減されるようにする。③現地政府、関連機関などとのしっかりしたネットワークを構築し、住民たちが HIV/エイズの社会的、経済的影響を軽減する活動を自主的に継続していけるようにする。

2. 事業の実施成果

3 年間の活動により達成された成果をそれぞれの目標(フェーズ 3 の期待される成果と共通)に照らしてみると、下記のとおりである：

① 地域における HIV/エイズの社会的・経済的影響が軽減される

本成果は、以下の成果の②から⑨までが達成されたことによって達成される、いわば上位目標の位置づけとなっている。

3 年間の事業実施を通じて、住民への啓発及び HIV/エイズに影響を受ける人々へのケアサポートを実施する住民グループの数が増え、それぞれの活動遂行能力が強化され、さらに各グループが効率的に連携しながら活動するよう促されてきた。その結果、人々の知識の増加、差別の軽減、HIV 抗体検査受検者数の増加、抗レトロウィルス薬（ARV）服薬患者へのサポート体制の構築、など様々な前向きな成果が得られた。これらは、事業実施対象地域における HIV/エイズの影響が総合的に軽減されたことを示すものである。

② HIV/エイズに対する正しい知識が普及する

最終年(フェーズ 3)においても、学生による校内での啓発活動や、学生や住民グループによる戸別訪問や寸劇等による啓発活動で、住民に直接 HIV/エイズや関連する性感染症についての知識を広めた。フェーズ 3 期間中の啓発活動対象者は約 9,000 人となっている。3 年間では、ワークショップなどを通じて 15 の住民グループのメンバー約 2,000 名に知識や技術を提供し、その住民グループが地域内延べ約 30,000 名に対して

啓発活動を行った。
終了時評価によると、地域の 26%の住民がグループによる戸別訪問による訪問を受け、約 73%の住民が何らかの形で住民グループから知識の提供を受けた、と回答している。また、知識面については、「HIV は蚊によって感染しない」など感染経路に関する正しい知識を持つ人が増加し、多くの質問において 100%に近い正答率となっている。これは国の平均値を上回るものとなっている。

③ コンドームの正しい使用法が理解され、使用率が高まる

フェーズ 3 おいても、引き続き啓発活動を通じてコンドーム使用の必要性や使用方法を伝えた。フェーズ 2 までの経験を生かして、啓発活動を実施する際は可能な限りコンドームを持参し、希望する人にコンドームの使い方を伝え、配布した。
3 年間で配布したコンドームの総数は約 15,000 個となった。
終了時評価においては、「コンドームを使ったことがある」、「コンドームをどこで手に入れるか知っている」、「前回のハイリスク行動でコンドームを使用した」などの回答が増加するなど状況の改善が見られた。これらの回答をした人々の割合は国の平均値を上回るものである。特に、「前回のハイリスク行動でコンドーム使用」については、国の平均値を 25 ポイント以上 上回っており、事業実施対象地域において、HIV 感染予防に関する意識向上と行動変容が起こっていることを示している。

④ VCT センター（住民が自発的に HIV 抗体検査とカウンセリングを受ける施設）を訪問して検査、カウンセリングを受ける人が増える

フェーズ 2 後半より、地域で啓発活動を実施する各グループ間に、「検査を奨励し、抗レトロウィルス薬（ARV）服薬につなげていこう」という共通認識が生まれ、フェーズ 3 にかけては、学生が中心となってこの点に絞った啓発活動を展開してきた。
これに加え、クリニックにおいても、妊婦検診の際に積極的に HIV 抗体検査受検を勧めるようにして、受検促進に寄与したほか、マウントマクル診療所においては、当会が VCT 施設を建設したこともあり、2008 年 10 月のオープン以降は、受検者数が建設以前の 5 倍以上に増加している。
終了時評価のデータから見ても、これまでに受検したことのある人は活動開始時の 2006 年には 41%であったのが 51%に増加しており、特に最近一年間での受検が 29%と国の平均値 15.1%を大幅に上回っている。

⑤ HIV 陽性者に対する社会的、心理的ケアのシステムが確立する

フェーズ 3 では、これまで活動してきた 3 つの HIV 陽性者グループに加え、新たに 3 つのグループから支援依頼を受け、計 6 つの陽性者グループ（計約 240 名）に支援を拡大して実施した。これは、当会がこれまで実施してきた活動手法がそれぞれのグループに認められたこと、さらには地域の HIV 陽性者に対する差別や偏見が軽減されて、自

助グループ活動を公表しやすくなったことに起因しており、前向きな成果である。
活動内容としては、週一度の定例会実施やワークショップ開催等を通じてメンバー間の自助活動の支援を行った。具体的には、ARV、日和見感染、HIV 陽性者に必要な栄養、子どもの社会的・心理的ケア、差別に直面した場合の対処法、家庭で実施できる看護手法などについて情報を交換、知識を提供、などである。
陽性者同士の支援だけではなく、陽性者グループと地域内のクリニックやホスピス、訪問看護グループとの連携も進んでいる。クリニックなどにおいては、積極的に情報収集等を行う陽性者グループのプレゼンスが認識されてきており、HIV 抗体検査で陽性と判明した人への陽性者グループの紹介、ARV を開始した人に対する訪問看護グループによるモニタリングなどがスムーズに実施できるようになっている。

⑥ 女性や子どもなど特に HIV 感染拡大の影響を受ける人々への支援が実施される

女性や子どもを含む HIV/エイズに影響を受ける人々を対象に訪問看護や社会面・心理面での支援を行っている家庭訪問看護ボランティアグループと連携して活動を実施した。新メンバーへの基礎看護技術研修や子どもの権利や成長についての研修を実施するなど活動能力の強化を図った。
また、当事者である HIV 陽性者グループのメンバーへも同様の研修を実施することで、家庭レベルでの社会心理面での支援を図った。さらに、陽性と判明した人たちには、外部団体からの様々な形の支援をより受けやすい陽性者グループへの参加を促すことで、彼らの生活の質向上を図った。
終了時評価によると、訪問看護ボランティアらは 3 年間で約 9,200 名に対して身体的・心理的な支援を行った。これは、聞き取り調査で得た、約 30%の住民が訪問看護グループから支援を受けている、という情報と合致している。

⑦ 地域内における HIV 陽性者に対する差別や偏見が軽減される

終了時評価の結果や、HIV 陽性者自身の感じ方などから、事業実施対象地域における HIV 陽性者に対する差別や偏見は、着実に軽減されてきていると判断される。
地域住民は、当会が支援した住民グループが実施する啓発活動のメッセージに日常的に触れ合ってきたことに加え、ARV を服薬して通常の日常生活を送れるようになっている HIV 陽性者を目の当たりにしている。さらに、HIV 陽性者グループの能力向上に伴って、カミングアウトして HIV の知識を他人に伝えていくことの出来る HIV 陽性者が増えてきている。その結果、人々も HIV/エイズの存在を受け入れ、偏見が軽減される、という流れにつなげられている。
終了時評価の結果も、差別や偏見が軽減されていることを裏付けている。「友人に HIV 陽性の人がいる」と回答している人が前回調査と比較して 2 倍に増えていることは、HIV に感染していることを他人に伝えることが出来る雰囲気が地域社会において醸成されてきていることを示しているといえよう。また、「HIV に感染している子どもの通学を許すべき」や「HIV に感染している人が経営している店で物を買う」などの質

問に対しても、より多くの人々が肯定的に回答するようになっていることも、前向きな変化の表れと言える。

⑧ 住民のグループが対策活動を自立発展させながら継続的に実施する

6 つの学校のエイズ対策クラブ(合計 420 名)、6 つの HIV 陽性者グループ (合計 240 名)ら住民グループに対し、自らのミッションと目標を明確にし、活動計画を策定した後に活動を実施し、活動後には評価をすることによって次により効果的な活動を実施するという「計画→実施→評価→次の計画」のサイクルを念頭において活動を行うよう指導・助言を行った。これにより、「戸別訪問による啓発」や、「カップルを対象としたセミナー」「行動変容理論を用いた啓発手法の分析」など、活動開始当初には思いもよらなかった種々の新たな取り組みが自主的に行われるようになっており、各グループは活動を自主的に継続する能力を着実に備えてきた。

⑨ 地域の行政機関、民間団体と連携する包括的なネットワークが構築される

各住民グループが効果的に活動を実施するためには、関係各機関、特にクリニックやホスピスなどの医療機関との連携が不可欠である。訪問看護グループは、病人や HIV 抗体検査のリファーラルや訪問看護キットの入手といった機会を通じて医療機関との連携を強化した。学生ら啓発活動を実施するグループは、クリニックで無料配布されているコンドームの入手や VCT データの収集などを通じて連携を強めた。また陽性者グループは、ARV 服薬や薬効検査、カウンセリングなどを通じて緊密な連携をとった。

行政機関についても、郡レベル、地域レベルにおいて各担当官との協議実施等を通じて関係の構築と連絡調整を行った。

住民グループ同士の連携を強化し、地域住民からの認知度を高めるために重要な役割を果たしているのが、毎年 12 月 1 日に地域住民が合同で実施している世界エイズデーのイベントである。2008 年には、14 団体(300 名)が合同で企画し、会議を重ねて周到に準備した結果、これまでで最も多い地域住民約 1,000 人が参加する大規模なイベントとすることができた。

このように、これまでのプロジェクト期間中に様々な機会を利用して関係を構築することにより、現在ではそれを生かして効果的な対策が実施できるようになっている。

3.今後の展望:

今後は、平成 21 年 4 月 2 日に申請書を提出した新事業・チパパプロジェクトの活動開始にスムーズにつなげ、チランガ事業の教訓を活かして事業をさらに発展させていきたい。

以　上

添付③：事業実施内容詳細報告書

中間報告以降（2008 年 10 月 1 日から 2009 年 2 月 18 日）のそれぞれのグループの活動内容は下記のとおり：

(イ)　エイズ対策クラブ (6 校)

学校での毎週一度の定例会に加え、下記を実施：

月	実施された活動内容
10 月	• マウントマクル校とチランガベーシック校がリンダ地区にて戸別訪問による啓発活動実施 • ムンコロ校を対象に、ニーズ調査手法の研修を実施（第1部）
11 月	• ムンコロ校を対象に、ニーズ調査手法の研修を実施（第2部） • チランガベーシック校の新しいメンバーを対象に、HIV/エイズ基礎知識のワークショップを開催 • チランガ地域全 6 校のリーダーが、リンダ地区にて啓発活動実施
12 月	• チランガ地域全 6 校が 2008 年の活動の振り返り会議を開催 • チランガ地域全 6 校が 2009 年の活動計画策定会議を開催
1 月	• パークランズ校、チランガベーシック校、ムサンバベーシック校を対象に、リーダーシップとコミュニケーションスキル研修を実施
2 月	• ムンコロベーシック校、ZOCS リンダ校、マウントマクルベーシック校を対象に、リーダーシップとコミュニケーションスキル研修を実施 • チランガベーシック校、ムサンバベーシック校、ムンコロベーシック校、マウントマクルベーシック校、ZOCS リンダ校を対象に、HIV/エイズに関する基礎知識ワークショップを実施 • パークランズ校がフリーダム地区にて戸別訪問による啓発活動実施 • パークランズ校を対象に、行動変容に関するワークショップを実施 • マウントマクルベーシック校が全校集会にて啓発活動実施

(ロ)　HIV 陽性者グループ　(6グループ)

毎週一度の定例会に加え、下記を実施：

月	実施された活動内容
10 月	• ルサピラ女性陽性者グループを対象に、活動計画策定ワークショップを実施 • リンダ陽性者グループを対象に、HIV/エイズに関するピアエデュケーション実施手法ワークショップを実施（第 1 グループ）
11 月	• リンダ陽性者グループ内の啓発チームを対象に、啓発活動計画策定ワークショップを実施

	• ルヤンド陽性者グループのメンバーを対象に家庭看護技術ワークショップ開催 • トゥユメ陽性者グループがリンダ等6つの地区にて啓発活動実施
12 月	• リンダ陽性者グループを対象に、HIV/エイズに関するピアエデュケーション実施手法ワークショップを実施（第2グループ） • トゥワフワネ陽性者グループを対象に、活動計画策定ワークショップを実施
1 月	• リンダ陽性者グループとトゥワフワネ陽性者グループを対象に、寸劇を通じた啓発に関するワークショップを実施
2 月	• ルヤンド陽性者グループを対象に活動計画策定ワークショップを実施 • リンダ陽性者グループとトゥワフワネ陽性者グループが、リンダ地区にて寸劇を通じた啓発活動を実施 • リンダ陽性者グループメンバーと、資金援助を受けた際の報告の仕方等の対応方法に関する会議を実施 • リンダ陽性者グループを対象に子どもへの心理社会面での支援に関するワークショップを実施 • トゥワフワネ陽性者グループを対象に、小規模ビジネスワークショップを実施

(ハ)　訪問看護ボランティアグループ

毎週一度の定例会、訪問看護活動に加え、下記を実施：

月	実施された活動内容
1 月	• チランガ訪問看護ボランティアグループを対象に、基礎カウンセリング研修を実施
2 月	• チランガ訪問看護ボランティアグループを対象に子どもへの心理社会面での支援に関するワークショップを実施

(ニ) 地域で活動するグループによるホスピスやクリニック、行政との連携確立

月	実施された活動内容
11 月	• チランガ地域で活動するグループや学校と、世界エイズデーのイベント実施に関する打合せ会合実施（4回）
12 月	• チランガ地域の 11 団体により世界エイズデーイベント開催
1 月	• ヘルスネット連携会議に参加 • JICA 青年海外協力隊エイズ対策隊員と共同で、リンダ地区の子どもを対象に健康に関するワークショップを実施
2 月	• ZNAN (Zambia National AIDS Network)主催の所得創出事業管理研修に参加 • TICO 代表より訪問を受け、当会のエイズ事業紹介とエイズ対策のアプローチや展

	望について意見交換

(ホ) その他

月	内容
11 月	• 中間報告を提出
12 月	• チランガ事業終了に係る、質問票を使った評価活動実施

以上